

23.12.31 2024 元旦-2

正確な契約 → 「集中しなさいーただー永遠の作品」

(使2:1-47)

序	1.重要 集中	2.集中	3.理由	本	2.内容	3.結果	結
	1) 神様が 与えられたこと (制限)	一致 1. 三位一体 2. 私 3. 御座 4. 神の国の こと (世の中)	AD70	1. 流れ (証拠) 1) 創3:15 2) 出3:18 3) イザ7:14 4) マタ16:16	1) 三つの祭り (2:1) 2) 三つの庭 (2:9-11) 3) 金土日 時代	1) 3:1-12 2) 7:1-60 3) 8:4-8 8:26-40	金 → 癒やし
	2) " "		-1948				土 → サミット
	3) すべてを生かす 答え (ワンネス)		313-1517				日 → 答え
			1517-2024				
			2030-2080				

聖書 : 使徒の働き 1:14

14 彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちとともに、いつも心を一つにして祈っていた。

使徒の働き 2:1-47

01 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。

02 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。

03 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。

04 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

05 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国々から来て住んでいたが、

06 この物音がしたため、大勢の人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、呆気にとられてしまった。

07 彼らは驚き、不思議に思って言った。「見なさい。話しているこの人たちはみな、ガリラヤの人ではないか。

08 それなのに、私たちそれぞれが生まれた国のことばで話を聞くと、いったいどうしたのか。

09 私たちは、パルティア人、メディア人、エラム人、またメソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントスとアジア、

10 フリュギアとパンフィリア、エジプト、クレネに近いリビア地方などに住む者、また滞在中のローマ人で、

11 ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレタ人とアラビア人もいる。それなのに、あの人たちが、私たちのことばで神の大きなみわざを語るのを聞くと、

- 12 人々はみな驚き当惑して、「いったい、これはどうしたことか」と言い合った。
- 13 だが、「彼らは新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、嘲る者たちもいた。
- 14 ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々に語りかけた。「ユダヤの皆さん、ならびにエルサレムに住むすべての皆さん、あなたがたにこのことを知っていただきたい。私のことばに耳を傾けていただきたい。
- 15 今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが思っているように酔っているではありません。
- 16 これは、預言者ヨエルによって語られたことです。
- 17 『神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。
- 18 その日わたしは、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると彼らは預言する。
- 19 また、わたしは上は天に不思議を、下は地にしるしを現れさせる。それは血と火と立ち上る煙。
- 20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる。
- 21 しかし、主の御名を呼び求める者はみな救われる。』
- 22 イスラエルの皆さん、これらのことばを聞いてください。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと不思議としるしを行い、それによって、あなたがたにこの方を証しされました。それは、あなたがた自身をご承知のことです。
- 23 神が定めた計画と神の予知によって引き渡されたこのイエスを、あなたがたは律法を持たない人々の手によって十字架につけて殺したのです。
- 24 しかし神は、イエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、あり得なかったからです。
- 25 ダビデは、この方について次のように言っています。『私はいつも、主を前にしています。主が私の右におられるので、私は揺るがされることはありません。
- 26 それゆえ、私の心は喜び、私の舌は喜びにあふれます。私の身も、望みの中に住みます。
- 27 あなたは、私のたましいをよみに捨て置かず、あなたにある敬虔な者に滅びをお見せにならないからです。
- 28 あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前で、私を喜びで満たしてくださいませ。』
- 29 兄弟たち。父祖ダビデについては、あなたがたに確信をもって言うことができます。彼は死んで葬られ、その墓は今日に至るまで私たちの間にあります。
- 30 彼は預言者でしたから、自分の子孫の一人を自分の王座に就かせると、神が誓われたことを知っていました。
- 31 それで、後のことを予見し、キリストの復活について、『彼はよみに捨て置かれず、そのからだは朽ちて滅びることがない』と語ったのです。
- 32 このイエスを、神はよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。
- 33 ですから、神の右に上げられたイエスが、約束された聖霊を御父から受けて、今あなたがたが目にし、耳にしている聖霊を注いでくださったのです。
- 34 ダビデが天に上ったわけではありません。彼自身こう言っています。『主は、私の主に言われた。あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。
- 35 わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。』
- 36 ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリス

トともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」

37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいでしょうか」と言った。

38 そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

39 この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」

40 ペテロは、ほかにも多くのことばをもって証しをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って、彼らに勧めた。

41 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

43 すべての人に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議としるしが行われていた。

44 信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、

45 財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。

46 そして、毎日心一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし

47 神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださいました。

要約

祈りを続けながら一番注意しなければならないことは、待つことができなくて、違うことをするようになることだ。永遠の契約を与えられたので、それを握って味わって待つのだ。二つ目は集中しなさい。落胆せずに集中するのだ。ただ。そのようにして永遠の作品が作られる。

口序論

1. 重要集中

- 1) 神様が与えられたこと(制限) 契約は、神様が与えられたことを握る必要がある。
- 2) 神様が答えられたこと(選択) それを選択された集中だ。世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいますと言われた。
- 3) すべて生かす答え(ワンネス) 神様が結局はすべてを生かす答えを与えられる。これがワンネス集中だ。

2. 集中とは何か

一致 集中は一致することだ。

- 1) **三位一体**の神様に
- 2) **私**とともに
- 3) **御座**の力で
- 4) **神の国のこと(世の中)** 神の国のこと、この部分が世の中に起こる。これが一致するのが集中だ。

3. 理由 この集中はなぜすべきなのか

AD70-1948 イスラエルの国が減びて 1948 年まで続いた。この中で福音を持っていたとても少数 0.1%の人々が世界を生かしたが、この祝福を見つけ出したのだ。三位一体の神様が御座の力で私とともにおられ、神の国のことを成し遂げられる。

313-1517 AD313 に 250 年後にキリスト教の前にひざまずいた。このときから 1517 年まで、福音が完全に崩れ始めた。このとき、少数の福音を持っていた、ただの人々が世の中を変えたのだ。だまされずに、契約をしっかりと握って集中しなさい。今から神様が与えられたことを持って祈りに集中しなさい。

1517-2024 1517 年から 2024 年だ。今、教会が門をみな閉ざす状態になった。このとき、神様は皆さんを呼ばれた。この暗闇の世界に福音を伝えなさいと皆さんを呼ばれた。確実な力を受ける必要がある。永遠の作品を作り出しなさい。

2030-2080 そして、さらに重要なのは、この時代を準備させることだ。レムナントを 2030~2080 の主役として私たちは、これを準備させるのだ。正確なことに集中する必要がある。

△**神様が与えられる正確な契約を握って集中すれば、必ず永遠の作品が出て来る。**これが 2024 年に逃してはならない祈りの奥義だ。

□本論

1. 流れ(証拠)

永遠の作品を作り出すのに集中すべき流れがある。この流れが必ずあるので、証拠を握って行く。

- 1) **創 3:15、出 3:18** 多くの証拠があるが、このみことばを悟った人が握って働きが起こったのだ。女の子孫が蛇の、サタンの権威を打つ、この力でなければ世界福音化はできない。
- 2) **イザ 7:14** インマヌエルの力でなければ、捕虜から解放させることはできない。
- 3) **マタ 16:16** こうしてマタ 16:16 まで来た流れだ。他のことは、サタンが全く恐れない。キリストの印が押されたキリストの奥義を持った者は、絶対に触れることができない。この流れを逃してはならない。

2. 内容 使 2 章でどんな内容に集中をしたのか

- 1) **三つの祭り(使 2:1)** 三つだ。五旬節の日になって、そう言われている。三つの祭りだ。
- 2) **三つの庭(使 2:9-11)** 絶対に逃してはならない。
- 3) **金土日時代** 使 2:42 に、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、ひたすら祈りに専念していたと出て来た。私たちが話す集中とは、金土日時代を言うのだ。必ずこの祝福を味わえば、皆さんに作品が出て来るようになっていく。

△今日、契約を受けた皆さんは、考えを少し直す必要がある。I コリ 1:18 に私が福音を恥じないのは、この福音は救いを与える神様の力だということだ。世界福音化の力は、人にあるのではないということを説明しているのだ。

3. 結果

- 1) **使 3:1-12** ペテロを通して足の不自由な人を立て起こしてしまったのだ。外国から来ている方々、本当に契約を握る必要がある。「私は私の国を変化させる。私の力ではできないけれど、この御座の力で変化させる」契約をしっかりと握りなさい。
- 2) **使 7:1-60** このメッセージのためにステパノは死んだ。最高の影響を与えた。アンティオキア教会まで。

3) 使 8:4-8、8:26-40 サマリア、エチオピアの宦官

△皆さん一人の祈りが世界を動かすことができる。御座の力は時空を超越するからだ。新しく始めなさい。考えを、一切変えて始めれば良い。福音の力で。マルコの屋上の部屋で始まったこの力で、永遠の作品を作り出すことができる。

□結論

☐金 - 癒やし 金曜日には本格的な癒やし運動を行えば良い。

☐土 - サミット 土曜日は世界に疎通するメッセージを握る日だ。これはサミットだ。

☐日 - 答え そして、聖日は答えを受けるのだ。

△永遠という作品を皆さんを通して残すようになるだろう。皆さんの祈り、この御座を動かす祈りを持って永遠の作品を作り出しなさい。

全文打ち出し訳

祈りを続けながら一番注意しなければならないこと、1講、待つことができなくて違ったことを始めるようになります。その失敗をしてはなりません。永遠の契約を与えられたので、それを握って、味わって、待つのです。では、二つ目に重要なことがあります。ヨセフが答えられて、多くの働きをしたのですが、監獄に行くようになりました。このようなとき、普通は、人々は錯覚をします。違うでしょう。そうでしょう。また、ダビデがゴリヤテに勝った後に、大きな祝福を受けると思ったのですが、死が近づくことが始まりました。エリヤが神様の力を持って宣言したのですが、少しいのちが危険なほど、問題が来たりもしました。今日、初代教会は、どんなことが起こったかということ、マルコの屋上の部屋に集まった人々を捕まえて閉じ込めろと国家で命令が下されました。

「集中しなさい - [ただ] - 永遠の作品」

(使 2:1-47)

集中しなさい、これが2講目です。どのように集中しなさいと言われたでしょうか。「ただ」そう言われました。落胆せずに集中するのです。「ただ!」そのようにして、この時間に必ずこれが来ます。永遠の作品が作られます。ここで最も大きい答えは使徒2章で出て来ました。落胆せずに

□序論

1. 重要

重要な部分は何でしょうか。

1) 神様が与えてくださったこと(制限)

イエス様が、聖書でしなさいと言われた部分に集中しなさいということです。すると正確に勝ちます。これを指して、先ほど話しました、制限された集中。他のことをするものではありません。神様が与えてくださったこ

とに集中するのです。今日から元旦が終わったらすぐに、病んでいる人は、なにも心配せずに「神様、私に証人の証拠を与えてください」他のことはありません。「私は生きても死んでも関係ありません。神様が私に証拠を与えてください」その時刻表です。その契約を、神様が与えてくださったことを握れば良いのです。神様が皆さんに病気を与えられたら、そこに理由あるでしょう。それを握るべきなのです。ほとんど、そこでまた逃します。聖書にある答えが来るか来ないかが重要でしょう。

2) 神様が答えられたこと(選択)

神様が答えられたことがあります。それを指して選択された集中と言います。これは、必ず覚える必要があります。落胆する理由がないのです。答えが来るのですが、私たちはしばしば1講は他のことを握り、2講は来ていることを逃すのです。逃すことが多いのです。何も関係ありません。「世の終わりまで、あなたがたとともにいます」そうでなくて「いつもともにいます」

3) すべてを生かす答え(ワンネス)

神様は、結局は、すべてを生かす答えを与えられます。これを指してワンネス集中と言います。必ず覚える必要があります。それゆえ、無条件に集中するわけではありません。下手すると、正確に答えを受けることができません。神様が与えてくださったこと。

私は昔に祈りに答えられず、祈りも分からないし、教えてくれる人もありませんでした。これをもって、聖書から見つけ出しました。聖書にあるとおりに見て祈ったのですが、神様が世界福音化の門を開けてくださいました。皆さんに間違いなく来るでしょう。

2. 集中

この集中ということを少し理解して、次に行く必要があります。

3. 理由

この集中は、なぜしなければならないかという理由も少し知って。次に行くべきでしょう。

1. 重要集中

最も重要な集中は、この(序論1)部分です。

2. 集中 - 一致

集中というのは、一致することを言います。

[1. 三位一体]

三位一体の神様に、

[2. 私]

私とともに、

[3. 御座]

御座の力で、

[4. 神の国のこと(世の中)]

神の国のこと、この部分が世の中に起きます。

これが一致するのが集中です。

3. 理由

では、なぜそうするのでしょうか。

[AD70-1948]

AD70 以降 1948 年まで、どんなことが起こったのでしょうか。イスラエルの国が滅亡する、そこまで行きました。この中に福音を持っているとても少数 0.1% の人々が世界を生かしたのですが、何でしょうか。この(序論 2)祝福を見つけ出したのです。いつもついて来ます。皆さんに、世の中の人々が奪っていくことはできない三位一体の神様が御座の力で私とともにおられ、神の国のことを成し遂げられるということです。絶対に逃してはなりません。イエス様が言われたことです。このことばを持ってマルコの屋上の部屋に集まったのです。では、こういう事がある、そのために。では詳しく見てください。

[313-1517]

AD313 に、ローマがあれだけ迫害していたのですが、250 年後にキリスト教の前にひざまずきました。このときから 1517 年まで、どんなことが起こりましたか。1517 年はマルティン・ルターが宗教改革したとき、完全に崩れ始めたのです。このとき、少数の福音を持っていた、ただの人々が、世の中を変えたのです。だまされずに、契約をしっかりと握って集中してください。今から神様が与えられたことを持って祈りに集中してください。

[1517-2024]

1517 年から、今年が 2024 年です。今、どうなりましたか。よく信じる、信じない、何の意味がありません。教会の門をすべてみな閉ざす、今の状態になりました。大変なことになったでしょう。神様は、皆さんを呼ばれました。神様は皆さんに約束されたのです。この暗闇の世界に福音を伝えなさいと皆さんを呼ばれたのです。確実な力を受ける必要があります。永遠の作品を作り出さなさい。

[2030-2080]

そして、さらに重要なことは何でしょうか。私たちはこの時代を準備させるのです。ここでレムナントは 2030 ~2080 の主役ですが、私たちはこれを準備させるのです。では、正確なことに集中すべきだということです。どこに集中するかがとても重要でしょう。

正確な契約

神様が与えられる正確な契約を握って集中すれば、必ず永遠の作品が出て来ます。これがいま今年 2024 年に逃してはならない祈りの奥義です。そして、オリーブ山でキリストが与えられたこと、それを握って。いや世界教会がそれをせずに、違うことをしています。これをすべきです。すると、必ず答えが来ます。そうしたら、それを握ってまた、いま集中するのです。簡単でしょう。そして、実際の答えが来る前に、最もはやい答えが神の国が成し遂げられるということです。それを握るのです。このときから、すべてを生かすことが起こります。皆さん 1 人ゆえにです。そうでしょう。ヨセフ 1 人が答えられたから、みな生かされたでしょう。これまでが、皆さんがイエス様が語られた重要な理由を握って、今から進んで行くのです。

口本論

では、使徒 2 章に起こったことがいくつかあります。

1. 流れ(証拠)

最も重要なことは、永遠の作品を作り出すのですが、集中すべき流れがあります。私たちは証拠を握って行く

のです。この流れが確かにあるため、証拠を握って行きます。

1) 創3:15、出3:18

多くの証拠がありますが、何を見て行けば良いでしょうか。これを悟った人が握って働きが起こったのです。アブラハムの子孫の中でヨセフとモーセがこれを悟りました。この流れ以外は、無条件にだまされるのです。女の子孫が蛇の、サタンの頭を、権威を打つ、この力でなければ、絶対に世界福音化をすることができません。どんな能力がある者もできません。重職者の皆さんがこの契約を握る瞬間、ある日、皆さんは杖一本しかなかったのに、世界を福音化するようになるでしょう。それです。信じてください。証拠を逃してはなりません。

2) イザ7:14

また、忘れてしまったでしょう。インマヌエルの力でなければ、捕虜から解放させることができません。「処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ」

3) マタ16:16

こうして、これまで来たのです。これまでが流れです。「あなたは生ける神の子キリストです」他のことは、サタンが全く、皆さんを恐れませぬ。皆さんがどんな力を持っていても、倒すことができます。そうでしょう。いくら持っていることが多くても、皆さんを触ることができます。キリストの印が押された、キリストの奥義持った者は、絶対に触ることができないのです。この流れを逃してはなりません。不思議に、これを度々逃して行って、また、捕虜に行って、また属国になって、続くのです。だれがそうさせるのでしょうか。サタンがそのことをするのです。皆さんがこの部分だけ分からなければ、いくらでも殺せるから。

2. 内容

では、これを握って今、見てください。使徒2章です。使徒2章でどんな内容に集中をしたということでしょう。三つです。

1) 三つの祭り(使2:1)

「五旬節の日になって」そう言われています。三つの祭りです。

2) 三つの庭(使2:9-11)

使徒2章9節10節11節。为什么呢。三つの庭です。絶対に逃してはなりません。

3) 金土日時代

そして、何でしょうか。使徒2章42節。これ(三つの庭)は2章9節10節11節。使徒2章42節に「使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、ひたすら祈りをしていた」と出て来ています。これを今、私たちが話す「集中」という金土日時代を言うのです。

必ずこの祝福を味わえば、皆さんには作品が出て来るようになっていきます。それゆえ、今日、契約を受けた皆さんは、考えを少しだけ直す必要があります。私が今回、光州に行って話をしました。「私たちはすべての動機をみな捨てるけれど、聖なる動機は持つ必要がある」何の話でしょうか。私がヨンド、ここに来て始めた時に皆さんに言ったことです。私は力がないので世界福音化はできません。確実でしょう。いや、ソウルに行って勉強していたとき、ソウル教会を見て回ったら、ある教会は国会議員だけ10人います。ある教会に行ってびっくり驚きました。私がいつもテレビで見ていたタレントだけおよそ10人ずつ20人ずついます。そのために人々が集まっています。それゆえ「あ..私はどうていできない」と思いました。あの、また、ヨンラク教会に行ってみました。すばらしかったのです。私はできません。率直に認めて、私はできない。ところで、そうではありません。神様が、私に重要な答えを与えてくださいました。「ヨンドで聖書にあるとおりにしなさい。

ただ福音でしなさい。ただ伝道しなさい。ただ祈りだけしなさい」その契約を握りました。握った後に、後ほど考えが変わりました。ヨンドでできる、ヨンドでも。そうするうちに考えが変わりました。ヨンドだからこそできる。何ででしょうか。神様の力で。それが証人です。そうでしょう。

私は、一度、スヨン口教会に行つて失敗を一度しました。「私はソウル大学を出たのではありません」こう言いました。知ったところ、ジョン・ピルド牧師がソウル大学を出ていました。私はハーバードを出たのではありません。私は長官をしたこともありません。もし私がソウル大を出て、ハーバードを出て長官をしたとすれば、私が牧会をうまくしたら、何と言うでしょうか。何と言われるかということです。「やはり違うよ」何がでしょう「ソウル大は違うよ」そう言うでしょう。「ああハーバードは違うよ。いやあ!あの人は長官をしただけあって、違うよ」そう言うでしょう。だれが栄光を受けるでしょうか。何でもなし私が、何でもなし皆さんが世界福音化をした。なんでしょう。神様の力。福音の力。それを私が始めるときに、握りました。私の力ではない。神様の力で。

そのように、1コリント1章18節に、とても重要なみことば出てくるでしょう。私が福音を恥とは思わないのは、この福音は救いを与える神様の力です。それとともに、続いて出て来るでしょう。この地に知恵者がだれなのか、知恵のある者がだれですか。神様より知恵がありますか。この地に論客はだれですか、この地に力がある者はだれですか、神様より力がありますか。神様が弱い私たちを呼んで、強い者を恥ずかしめる理由は何でしょうか。強い者が間違いなのではありません。何でしょうか。この世界福音化の力は、人の力によるものではないということを説明するのです。知っていますか。皆さんがこの契約を握ってこそ、皆さんが国を生かして家系も生かして、みな生かすのです。確かに神様が力で働かれるようになっています。覚える必要があります。

今日、皆さんが自分に誓うべき部分です。何も持っていない人々、自分に誓ってください。「私はなくても大丈夫。神様の力で世界福音化をする。病気でも大丈夫。私は神様の力を体験する証人として行く。何の背景もない私の産業は、世界福音化をするのに用いられる証人として立つ」肝に銘じる必要があります。それが起こる必要があるのです。この今、マルコの屋上の部屋に集まった人、完全に危機に置かれた人々なのに、この人々が世界福音化をしたのです。

3. 結果

結果に集中すべきです。

1) 使 3:1-12

不思議なことが起こりました。足の不自由な人を立て起こしてしまったのです。ペテロを通して。大騒ぎが起こったでしょう。この人はみんなが知っている人です。美しの門の前に座って四十何歳になるときまで、もの乞ひしていたので、みんなが知っていました。この人をナザレのイエス、その御名で立て起こしてしまった、神様が。ペテロは、自分も分かりません。神様が立て起こされたのです。キリストの御名を高めようと神様が立て起こされたのです。私は何をしたのでしょうか。イエスの御名で話したただけだ。そばに証人として足の不自由な人が立っているのに何か。そうでしょう。足の不自由な人は、立っていれば証人です。これが不思議なことが起こったのです。永遠の作品が出て来るようになるのです。単なることではありません。覚悟すべきです。外国からたくさん来られた方々、本当に契約を握れば良いのです。「私は私の国を変化させる。私の力ではできないが、この御座の力で変化させる」できます。契約をしっかりと握ってください。

2) 使 7:1-60

たくさんありますが、見てください。このメッセージのためにステパノは死にました。死んだのではありません。最高の影響を与えたのです。アンティオキア教会「ステパノのことから起こった迫害により」そう言われているでしょう。そして、できた教会。

3) 使 8:4-8、26-40

驚くことが起こり始めます。サマリア。だれも行けません。ユダヤ人は行きません。そこに働きが起こります。引き続き働きが起こり始めます。エチオピアの宦官に会って、皆さん一人の祈りが世界を動かすことができます。どうしてでしょうか。御座の力は時空を超越するからです。新しく始めてください。考えを一切変えて始めてください。神様のことで。ある面で私は人の助けは必要ありません。神様の力でします。その覚悟をする必要があります。皆さんを通して働きが起こります。私たちは、ここでそのように始めました。ここに今、証人がいるでしょう。私たちの勸士、長老、みな証人です。私たちは、何もないところから始めました。世界福音化することができます。何によってでしょうか。福音の力で。マルコの屋上の部屋で始めたこの力で、永遠の作品を作り出すことができるのです。

□結論

結論を出します。皆さん、ミッション、最初のことが先ほど三つの庭でした。

【金】 - 癒やし

金土日時代、金曜日には本格的な皆さんと多くのレムナントと外国人、病気だけあるものではありません。多くのことがあります。癒やし運動をする必要があります。

【土】 - サミット

土曜日は何をするのでしょうか。皆さんが世界に疎通するメッセージを握る日が土曜日です。これはサミットです。

【日】 - 答え

そして、聖日は答えを受けるのです。聖日ごとに皆さんが重要な答えを見つけ出すようになるでしょう。それゆえ、永遠という作品、皆さんを通して残すようになるでしょう。皆さんの中に「私はどのようにするのか」このような人が多いです。「いや私は何の力もないのに」こう思う人が多いです。

私は今でも思い出します。私たち4人が私の兄弟がいて、私が一番上でしたが、中学1年ということです。それでは下がどれくらい幼いでしょうか。私たちの父親が病気になって亡くなったということです。難しくなったのです。今でも私たちの母親の言葉を思い出します。私たちを見て言ったことです、そのまま。「私はあなたたちを生かしていくべきなので、悩む時間がない。そして、祈らなければならないので心配する時間もない。私は聖日のほかに、毎日仕事をしなければならないので、病んでいる時間もない」単に言ったことばですが、今、静かに振り返ってみると～何の力もない人が…それが祈りです。何の力もない人の祈りが、世界福音化の門を開いたのです。もう悟るべきです。皆さんがこの御座を動かす祈りを持って永遠の作品を作り出さない。1講「待ちなさい」この言葉は、私自身からやぐらを作ることです。そうした後に、それから永遠の作品を作るのです。明日、最後にある講義を置いて、私たちは1年間に大きい答えを受ける必要があります。祈ります。

祈り

神様に感謝いたします。私たちを、何の力も無い私たちに世界福音化の大いなる祝福を与えてくださったことを感謝いたします。完全に神の国を味わう祈りが始まりますように。聖書にあるまことの答えを味わいますように。私たちの学業が産業が、神様の栄光を現わす神の国のことを成し遂げる作品になりますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン